

山田発

「災害公営住宅」入居開始



山田町・豊間根地区に災害公営住宅が完成し、入居者へカギが引き渡されました。山田町での災害公営住宅への入居は今回が第一号です。災害

公営住宅は県がおよそ13億円をかけて整備したもので、2棟合わせて72戸です。今回入居するのは44世帯で、入居者は、それぞれの部屋に入り、間取りなどを再確認していました。山田町では町内19箇所に合せて831戸の災害公営住宅が県と町によって整備される予定です。(7/23 ニュースエコー)

大槌発

「自主防災計画案」提出

大槌町・吉里吉里地区の住民が、岩手大学・地域防災研究センターの支援を受け独自に作成した「自主防災計画案」が完成し、碓川豊



町長に計画案を提出しました。自主防災計画案は「自分の命を守ること」を大原則に、普段から家族で避難場所を決めておくなど、津波に対応する指針を定めています。碓川町長は「住まいの復興状況を見ながら、可能な限り町の防災計画に生かしていきたい」と応えていました。(7/24 ニュースエコー)

大槌発

「吉里吉里海岸」海開き

津波で大きな被害を受けた大槌町の吉里吉里海岸海水浴場が、震災後初めての海開きを迎えました。吉里吉里海岸は津波で大量のがれきやごみが流入。その後海岸清掃が行われ、水質を含め安全が確認されたことから海開きとなったものです。子どもたちは4年ぶりに砂浜で海水浴を満喫していました。また砂の像を作って楽しむ「砂の芸術祭」も開かれるなど、浜は震災前の光景がよみがえっていました。

(7/26 ニュース)



田野畑発

「新・島越駅」窓口業務再開



三陸鉄道北リアス線の田野畑村に再建された島越駅が窓口業務を再開しました。新しい駅舎は元の場所よりおよそ100メートル山側に

再建され、乗降はできるものの無人駅の状態でした。観光センターが整備されたことから窓口業務を再開したもので、観光客や地元の人たちは窓口の職員と再開を喜んでいました。島越では北山崎を巡る観光船も運航を再開しており、観光客誘致にはずみがつきそうです。(7/27 ニュース)

陸前高田発

高田松原復興祈念公園

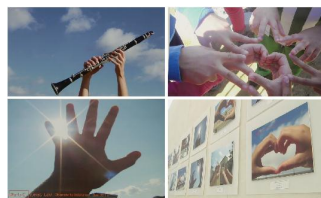
陸前高田市の高田松原跡に整備する予定の『津波復興祈念公園』について、建築学や地質学の専門家などで構成する県の「大規模事業評価専門



委員会」が現地調査を行いました。『高田松原津波復興祈念公園』は124ヘクタールの敷地におよそ100億円かけて整備される計画です。委員からは、公園内に整備される防潮堤の自然環境への影響や、震災遺構として残す計画の「定住促進住宅」などについて質問が出され、県の担当者が説明をしていました。(7/28 ニュースエコー)

盛岡発

写真展「きぼうの手」



「復興への希望」をテーマに、小中学生が撮影した写真展が、盛岡市の県立美術館で始まりました。会場には、被災地の小中学生が撮影した写

真や、東京・スペインの小中学生が被災地に寄り添う気持ちを込めて撮影したものなど、いずれも『こどもの手』がフレームに納められている作品、182点が展示されています。写真展「きぼうの手」は、8月17日まで開かれています。

(7/29 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122